

## 有珠山の火山活動解説資料（令和4年3月）

札幌管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1-①～④、図2）  
監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。
- ・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図3）  
火山性地震は山頂火口原の深さ1km以浅で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。  
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図4）  
GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

---

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政区・海岸線）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年4月分）は令和4年5月12日に発表する予定です。

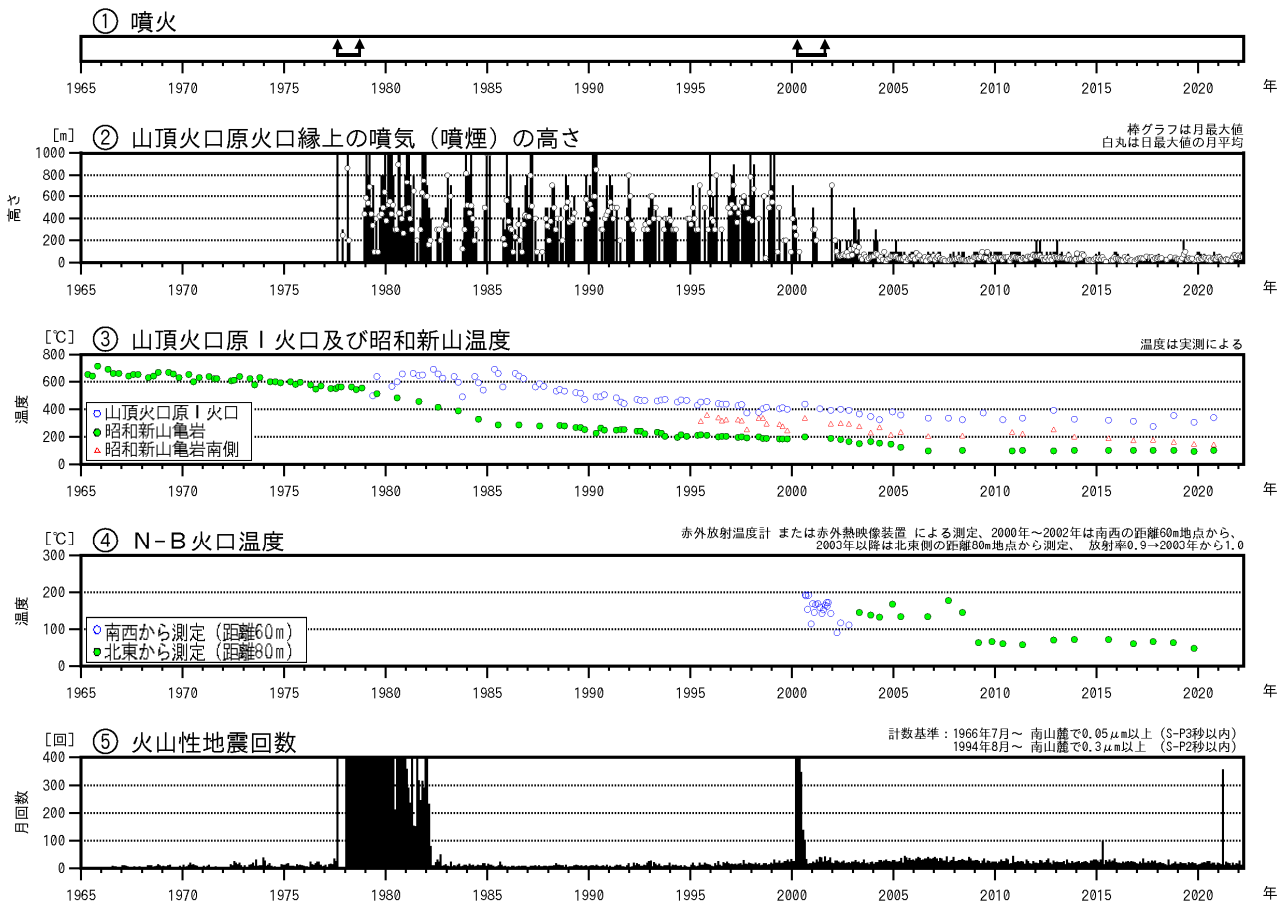


図1 有珠山 火山活動経過図（1965年1月～2022年3月）  
 ↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。



図2 有珠山 北西側から見た山頂部及び周辺山麓部の状況（月浦監視カメラによる）

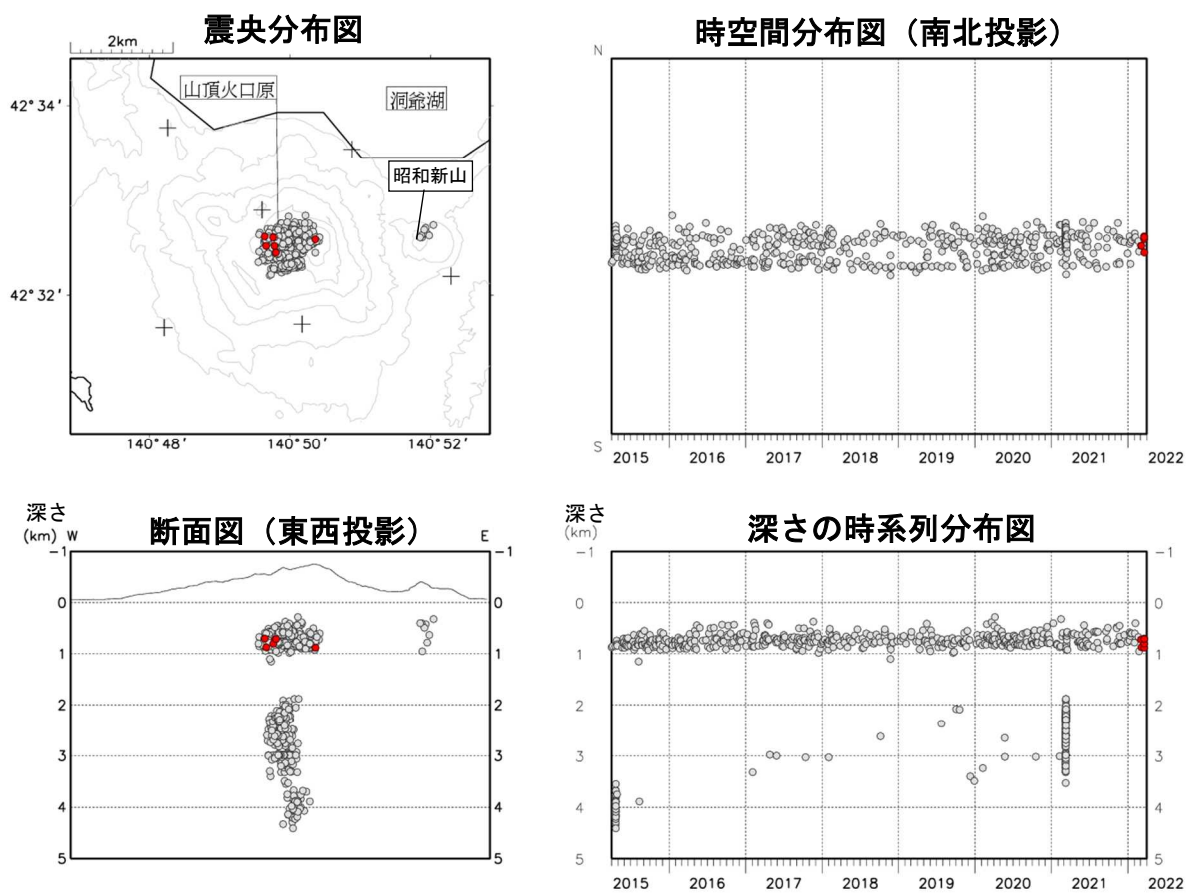


図3 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年4月～2022年3月）

●印：2015年4月～2022年2月の震源      ●印：2022年3月の震源  
 +印：地震観測点

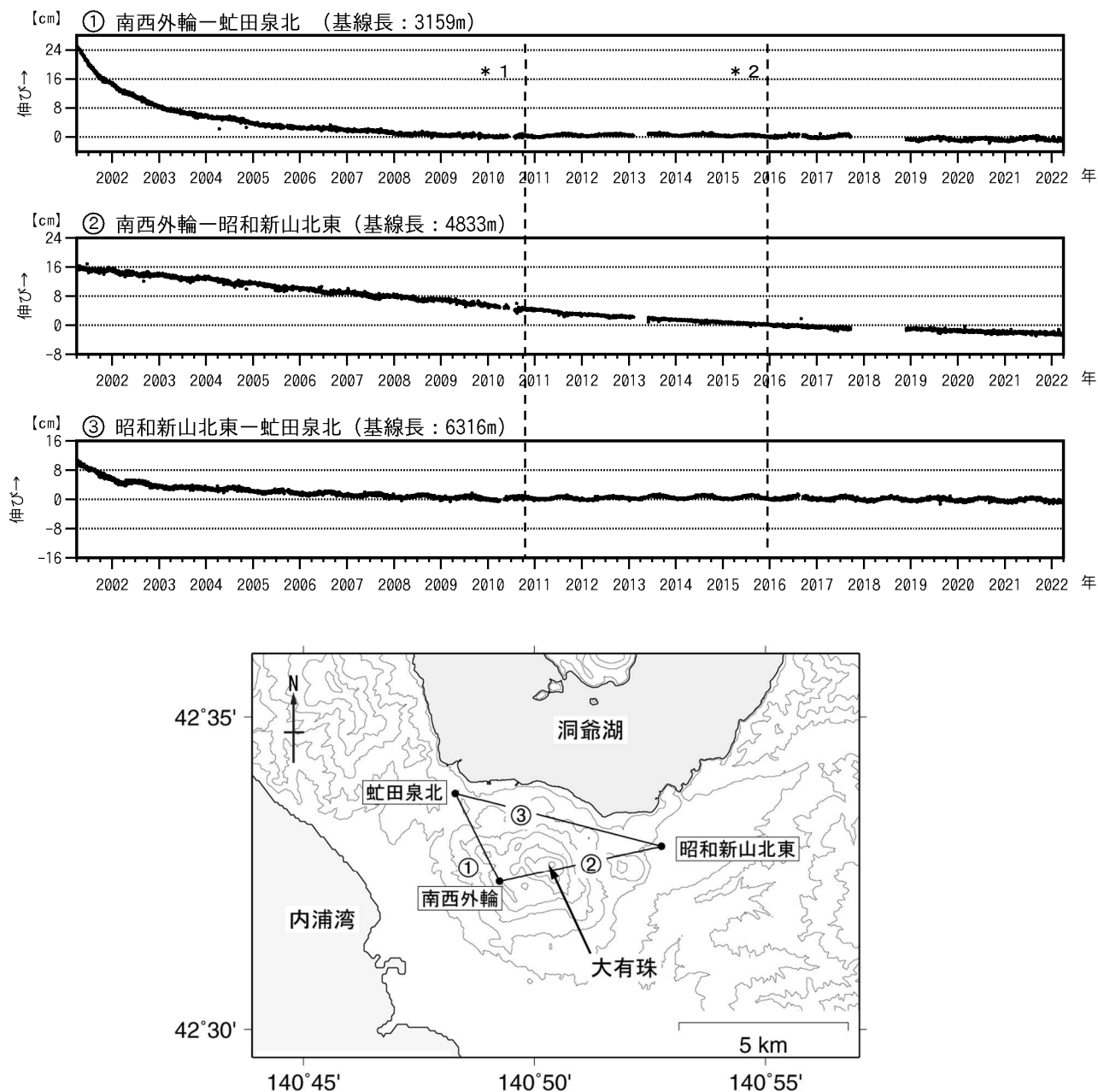


図4 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2022年3月）及び観測点配置図  
 グラフ①～③は観測点配置図の基線①～③に対応しています。  
 グラフの空白部分は欠測を示します。  
 2010年10月（\*1）及び2016年1月（\*2）に解析方法を変更しています。

- ・観測開始（2001年）以降、1977年噴火に伴う貫入岩体の熱収縮によると考えられる基線②の短縮が観測されています。

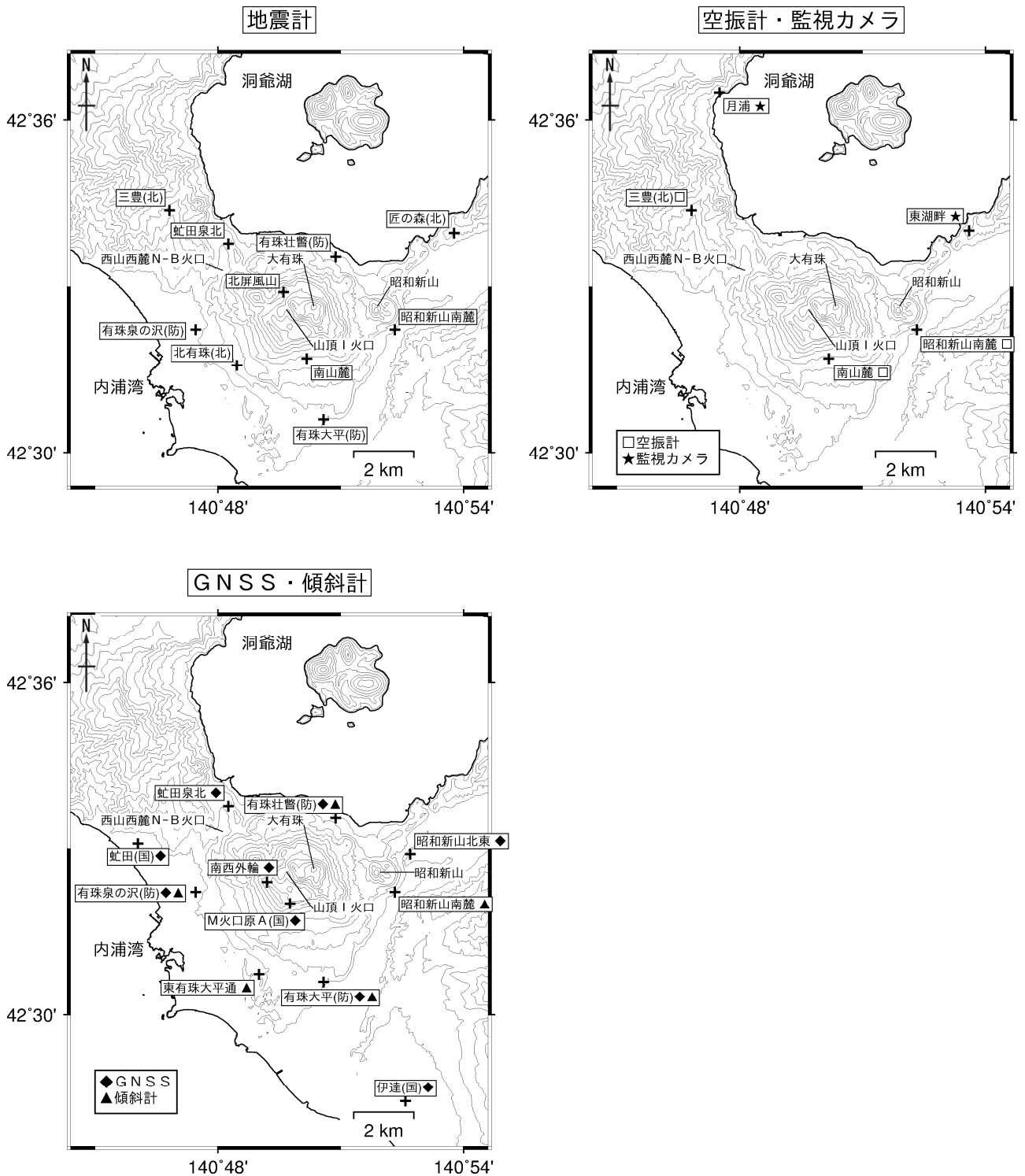


図5 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所